



## 楽しいボランティアのためのお願い

### ①プログラムを申し込む前に・・・

#### ○自分の気持ちを確認しよう

ボランティアを有意義に行うためには、自分の気持ちを確認することが出発点です。不安があるのは当然ですが、

「こんな体験をしたい」「こんなことが楽しみ」というような「積極的な動機」を自分の中で確認しておくことが大切です。

ボランティアとは  
ボランティア活動は、誰でも参加できる日常的な活動で、周囲の人や社会のために自発性に基づいての活動です。

#### ○福祉・ボランティア体験する施設について知ろう

体験する施設・グループについて知ることも大切です。事前に本やインターネット等で調べておきましょう。また、せっかくの機会ですから、社会福祉の動向や仕組みにも目を向けて見ましょう。体験に関する期待が大きくなったり、自分のイメージが変わるかもしれませんし、より有意義なボランティア体験となるでしょう。

#### ○活動に必要な基本事項について確認しよう

体験に必要な日程・時間、服装・交通機関、必要経費、食事、オリエンテーションなどの基本的な事項について確認しておきましょう。遅刻・無断欠席の場合、ボランティア体験を断られる場合があります。

#### ○不安なことや心配なことは相談しよう

体験に関する不安なことや心配なことは、まずボランティアセンター窓口で相談しましょう。

#### ボランティア活動の4つの原則

- ・ 自主性、主体性
- ・ 社会性、連帯性
- ・ 無償性、無給性
- ・ 創造性、開発性、先駆性

### ②ボランティア体験が始まったら・・・

#### ○利用者の生活を尊重しよう

施設は利用者の生活の場であり、活動の場です。利用者の生活が最優先となります。相手が何を望んでいるか、相手の立場に立って考えることが大切です。逆に利用者の自立を損なうような過剰なかかわりにも注意してください。

#### ○利用者のプライバシーを守ろう

体験で知り得た利用者のことはすべて個人のプライバシーです。そうした個人情報情報は絶対に外に漏らしてはいけません。利用者との話の内容や質問内容にも十分配慮しましょう。常に利用者の立場に立ち、ご本人を尊重することが何よりも大切です。

## ○社会人としてのマナーを守ろう

社会福祉施設はたくさんの方の利用する場所です。いったん施設の中に入ると、学生でも社会人として見られます。また、施設内には身体的に虚弱な方もいますので、衛生面・健康面には特に注意をしてください。

### 【注意点】

- ・ 挨拶・返事は欠かさずきちんと行うこと
- ・ 健康管理に気をつけること（うがい・手洗いを忘れずに。体調の悪いときは早めに相談すること。）
- ・ 携帯電話の電源は必ず切っておくこと
- ・ ボランティア体験に必要なものや貴重品は持っていかないこと
- ・ 服装は「体験のときに着用するもの（動きやすい服装）」を活動の内容を想定しながら考えること。暑い季節なので帽子やタオル、飲み物は必須です。ノースリーブやミニスカートなど身体露出のあるものは禁止。サンダルやぞうり等も適しません。
- ・ 身だしなみは清潔で相手に好感をもたれるよう気をつけること（アクセサリーは禁止。無精髭や過度の化粧・香水に気をつける。爪や髪にも注意。）

## ○スタッフの指示を守ろう

体験できる内容は施設やグループによって違います。利用対象が違うのはもちろんのこと、施設にはそれぞれの取り組みの方針がありますし、各利用者への援助の内容や目的も個々に違います。スタッフの指示は必ず守ってください。

しかし、指示を待っていたのでは思ったような体験ができないこともあります。やりたいこと、希望は事前に伝えましょう。

また、受け入れスタッフは日々の業務の多忙な中でも、できるだけ充実した有意義な体験をしてもらえるよう準備してくれています。感謝の気持ちをもって体験してください。

### ボランティア活動の意義・役割

- ・ 豊かな人間関係と生き方を培っていく
- ・ 色々な人や自然と共生する社会づくり
- ・ 連携と新しいコミュニティの創造
- ・ 活動を通して市民力を高めていく

## ○利用者との「関係づくり」を大切にしよう

利用者との「関係作り」はボランティア体験においてとても大切な要素です。自分の方から積極的に利用者には話しかけてみましょう。実際に仕事を体験する機会があるかもしれません。そんなときは、できないこと、知らないことははっきり伝えて、必ず教わった上で指示を守って体験してください。

## ○施設のスタッフから話を聞こう

実際の体験を通して、施設とスタッフや利用者のことを自分の目で確認しましょう。また、自分から積極的に質問してみましょう。視野を広げることで、福祉にたいする認識が深まり、人を援助する仕事への理解も深まるはずですよ。



## ○自分の「気づき」を大切にしよう

ボランティア体験では、心に余裕を持ち、感受性豊かに自分で「感じる」ことが大切です。そして想像とは違った点をもとに自分の「価値観」について気づきを深めてください。

### 活動をととしてのボランティアの役割

- ・ボランティア活動依頼者の社会生活を広げていく
- ・市民感覚で当事者に接したり、問題に接する
- ・問題点や課題について理解を深め、発信していく
- ・ボランティア自身の生活や価値観を豊かにする

## ③体験が終わったら・・・

### ○体験を振り返ろう

自分の体験や感じたことを家族や友人に話をしたり、記録にまとめてみましょう。また学校の中でも、他の施設での体験を行った人もいることでしょう。体験を一緒に振り返り、感じたことについて意見を出し合うことでいろいろな刺激があるはずです。自分の体験を言葉や文字にすることで、福祉に対する知識や考え方が深まり、また自分自身のことも気づかせてくれるはずです。

### ○他の活動もしてみよう

あなたはこの活動でどんなことが楽しかったですか？これからどんなことをしていきたいと思いますか？この活動を原動力に、他の活動にもチャレンジしてみませんか？ぜひボランティアセンターにお越しください。お待ちしております。